

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号：2019C-12

課題名：思春期・成人世代を迎えた小児がん経験者の心理社会的課題の抽出と評価

主任研究者 (所属施設) 国立成育医療研究センター
(所属・職名 氏名) 社会医学研究部・研究員 半谷まゆみ

(研究成果の要約) 小児がん経験者が発症から治療を経て成人するまでの間に潜在的に支援を要する、あるいは予防や支援が可能であるような心理社会的課題を明らかにするため、小児がん経験者 41 名・9 グループを対象にフォーカス・グループ・インタビューを実施し、分析した。

1. 研究目的

治療の向上に伴い長期生存できる小児がん経験者が増えている昨今、彼らの心理社会的影響に対し予防や対策を講じることが、患者本人だけでなく家族やそれを取りまく社会にとって喫緊の課題である。しかし、長期的な心理社会的影響を調べる研究は前例が少なく、手法にも限界があったため、本質を明らかにできているとは言えない。

本研究の目的は、小児がん経験者が発症から治療を経て成人するまでの間に潜在的に支援を要する、あるいは予防や支援が可能であるような心理社会的課題を、質的に明らかにすることである。これにより、年齢やリスク因子などに応じたフォローアップ、予防や支援が可能となり、当事者の心理社会的健康の向上が期待される。

2. 研究組織

研究者	所属施設
半谷 まゆみ	当センター
三瓶 舞紀子	同上
加藤 元博	同上
松本 公一	同上
伊藤 麻衣	同上
阿部 啓子	同上
浦山 ケビン	同上

3. 研究成果

小児がん経験者 30 名を対象にフォーカス・グループ・インタビューを実施する予定であったが、目標を大きく上回る 51 名の方から協力の同意を得た。このうち、年度内 40 名・計 9 グループを対象にインタビュー

を実施し、現在グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析を進めている。特に学業面については質・量ともに十分なデータが蓄積されており、小児がん経験者の中でどのような方々がどのような心理社会的困難に直面しているのか、さらにそれをどのように克服しているのか、といったことが明らかになりつつある。

残る 11 名については、2020 年度前半までにインタビューを終え、2020 年度中の学会発表・論文発表を予定している。

4. 研究内容の倫理面への配慮

本研究の遂行においては、「臨床研究法」および「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」を遵守する。国立成育医療研究センターの倫理審査委員会の承認を経て研究を実施する。研究対象者には、本研究に参加することの利益と不利益を十分に説明し、同意の撤回はいつでも可能なこと、また同意しなくても診療上の不利益はないことを理解していただいたうえで、同意を取得する。対象者が未成年の場合には、本人だけでなく保護者の同意も取得する。

研究参加者のプライバシー保護に特に十分な配慮をする必要がある。インタビューに際して、希望に応じて実名ではなくハンドルネームも使用できるようにするほか、話したくないことは話さなくてもよいことを予め明確に伝える。本研究の成果を公表する際には、個人を識別できる情報の取り扱いに十分な対策を行い、プライバシーの保護に対して配慮する。また、本研究への参加によって時間的・心理的負担が発生することを考慮して、各参加者に謝礼を進呈

する。